

今こそ活力と魅力あるまちづくりを



災害に強く、市民サービスの拠点となる市庁舎の新築移転に、今取り組むことは、防災体制の強化、まちづくりの推進、地域経済の活性化などの観点から、緊急性と必要性の高い重要な事業です。各総合支所、学校、公民館、保育園などの避難所の耐震対策も同時に進め、災害に強いまちづくりを実現します。

問い合わせ先 本庁舎庁舎整備局 ☎ 02867-20-3040 〓 choshaseibi@city.tottori.jp

将来に負担と不安を先送りしないために

本市は、地域防災体制の強化をはじめ、高齢化・少子化の進展、若者の県外流出などの課題に直面しています。その一方で、高速道路網の整備による企業進出の増加、商圏のさらなる拡大、山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟、鳥取環境大学の公立化・経営学部の創設など、新たな発展の機運が高まっています。

今こそ活力ある明るい未来を開くため、新しい時代に対応した安全・安心な暮らしと魅力あるまちづくりを実現していかねばなりません。将来に負担と不安を先送りしないために、新庁舎建設に今取り組むことが必要です。多くの市民のみなさんにこの事業をご理解いただけるよう、引き続き努力を続けます。

新庁舎の建設は緊急な課題です。

現市庁舎が抱える課題

- ①耐震化が必要
- ②設備などの老朽化・経費増
- ③本庁機能の分散
- ④バリアフリー化の不備
- ⑤狭あいな庁舎空間
- ⑥駐車場の不足など

今後、10月にまとめる鳥取市新庁舎建設基本計画（案）の中で、新庁舎の機能や規模、概算事業費など具体的な内容をお示しします。また、市庁舎移転後の跡地利用を含めた、総合的な中心市街地活性化の方策も年内に取りまとめることとしています。

市庁舎の移転新築

旧市立病院跡地（＝建設候補地）

合併特例債を活用すれば、市の負担は約3分の1ですみます。

経済波及効果が約164億円、雇用創出効果が約1400人見込まれます。

住民投票の実施について審議されました

8月8日、「市庁舎新築移転を問う市民の会」の吉田会長から、「鳥取市の市庁舎新築移転計画に関する住民投票条例制定請求書」が竹内市長に提出され、同月17日～23日に開催された市議会臨時会で審議されました。



吉田会長から請求書を受け取る竹内市長

新庁舎建設の効果

- ①災害対策拠点の充実・強化
- ②市民サービスと利便性の向上
- ③災害に強いまちづくりの推進
- ④省エネ・自然エネルギーの活用
- ⑤地域経済の活性化、雇用創出
- ⑥中心市街地のにぎわいづくりなど

市民ワークショップの取り組み

平成23年6月29日に第1回のワークショップを開催し、18人の委員が各グループに分かれ、これからの進め方などについて話し合いました。

また、7月14日には、第2回のワークショップとして、平成21年2月に新築した出雲市役所を視察。太陽光発電装置、庁舎内のフロア、市民広場、駐車場などを見学しました。

その後は、視察の報告と意見交換、各グループにおいて検討項目を整理し、現在、9月中の

報告書取りまとめに向け、活発な議論が行われています。



市民ワークショップによる出雲市役所視察の様子

市民ワークショップ意見メモ

市民機能グループ

- ・災害時に活用できる多目的ホール
- ・地産地消メニューを導入した食堂
- ・鳥取をイメージできる外観や内装
- ・鳥取市の情報発信、PRスペース
- ・自然光やLED照明の導入による省エネルギー化
- ・防災拠点として必要な倉庫

ユニバーサルデザイングループ

- ・高齢化に対応したサイン計画が必要
- ・授乳室など子育て世代への配慮
- ・通路は広く
- ・待合スペースは広く、くつろげるように
- ・プライバシーに配慮したカウンター
- ・各課各部署に番号をつけて分かりやすく

外部空間グループ

- ・駐車場は出来るだけ広く
- ・雪や雨に対応した駐車場
- ・開放的な憩いの空間
- ・憩いの場となる芝生公園
- ・鳥取市の木を植栽
- ・屋上に太陽光発電を設置

他の市庁舎では、こんな機能が実現しています！



災害時にも活用できる広場（山口県岩国市）



屋上緑化（東京都立川市）



太陽光発電システム（山口県岩国市）



屋根付き車椅子駐車場（東京都青梅市）



自然採光の活用（茨城県つくば市）



特産品（多摩杉）を活用したフロア（東京都立川市）



市民が利用できる多目的ホール（大阪府豊中市）



キッズコーナー（東京都青梅市）



授乳室（島根県出雲市）